

平成30年2月21日開催

交通政策調査対策特別委員会資料

項 目	ページ
1 北陸新幹線、上越妙高駅の利用実態調査結果について	1～3
2 JR及び各三セクの春のダイヤ改正について	4～17
3 上越妙高駅周辺開発の現状と今後の課題について	18～19

北陸新幹線、上越妙高駅の利用実態調査結果について

1 調査目的

上越妙高駅の停車機会を拡大していくためには、平日（月～金曜日）の利用を上げることが必要であることから、本調査で平日（月～金曜日）の日中における利用状況を3つの時間帯にわけ、把握・分析し、更なる利用促進につなげるための資料とするもの。

2 調査概要

実施内容：新幹線乗降者を対象にアンケート調査を実施

実施期間：平成29年7月24日（月）～28日（金）の5日間

調査時間：実施期間中の午前6時～10時、午後2時30分～6時

対象列車：①朝の臨時列車（上り596号・598号）

【ねらい】長野駅でかがやきに乗り換えるユーザーのための臨時列車。JRから利用状況が厳しいとの声があるため、利用形態を把握するもの。

②午前の定期列車（上り552号・554号・556号、下り591号・551号・553号）

【ねらい】午前中において乗車客の多い時間帯の列車であり、周辺市も含めた地域住民の利用形態（どこへ向かうのか）を把握するもの。

③午後の定期列車（上り566号・568号・570号、下り565号・567号・569号）

【ねらい】午後において乗車客の多い時間帯の列車であり、県外から上越地域に来訪された方の利用形態（どちらへ帰るのか）を把握するもの。

調査場所：上越妙高駅 自由通路

3 調査結果

○乗降者数調査

- 調査期間中の乗降者数 約17,700人（1日当たり約3,500人）
- 調査期間中のピーク 金曜日 約4,100人（最少は木曜日の約3,000人）

日にち	乗車			降車			合計
	上り	下り	計	上り	下り	計	
24日（月）	1,267	598	1,865	1,041	715	1,756	3,621
25日（火）	1,075	708	1,783	1,261	507	1,768	3,551
26日（水）	1,085	660	1,745	1,045	586	1,631	3,376
27日（木）	1,012	468	1,480	879	658	1,537	3,017
28日（金）	1,381	730	2,111	1,295	734	2,029	4,140
合計	5,820	3,164	8,984	5,521	3,200	8,721	17,705
平均	1,164	632	1,797	1,104	640	1,744	3,541

○利用状況調査

回答者数：乗車数647人、降車数310人 合計 957人

※降車客1人は利用列車が不明

(1) 朝の臨時列車（596号・598号）の利用状況

図1-1 乗車客の内訳（N=63）

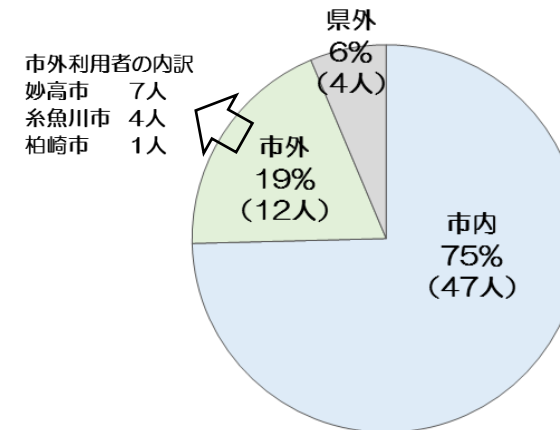
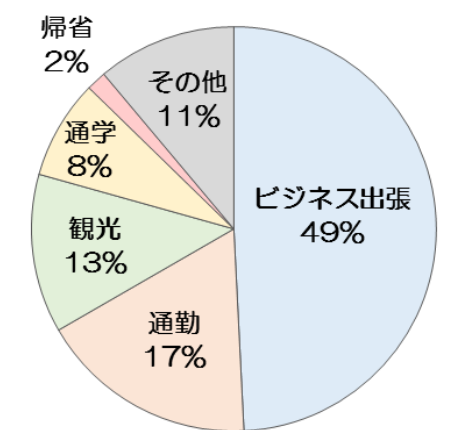


図1-2 新幹線の利用目的



- 上越妙高駅発長野駅着の朝の臨時列車は、市内在住者の利用が回答者全体の75%を占めた。市外の利用を含めた県内の利用割合は、全体の94%であった。
- 市外利用者のうち、ほとんどが妙高市民と糸魚川市民の利用であった。糸魚川駅から東京方面へ向かうかがやきに乗り換えるためには上越妙高駅でこの列車に乗り換えるか、富山駅で乗り換えるかのいずれかとなり、最寄りとなる上越妙高駅を選択されているものと考えられる。
- 県外利用者の全員がビジネス出張の帰りに朝の臨時列車を利用していた。

図1-3 降車駅の利用割合（N=63）

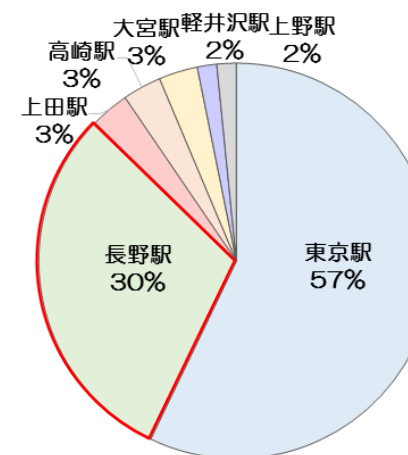
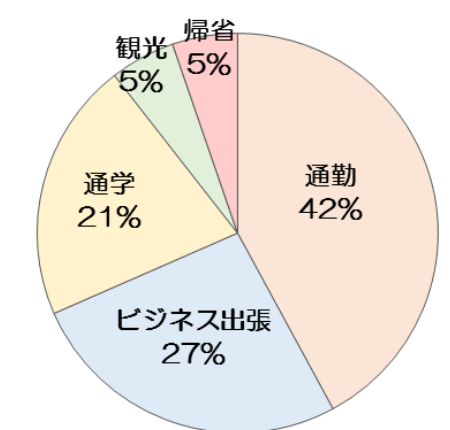


図1-4 長野駅利用者の利用目的



- 東京駅に次いで回答が多かった降車駅が、長野駅（30%）となった。
- 長野駅利用者の利用目的をみると、通勤・通学で利用されている方が全体の63%を占め、開業初年度に実施した調査から22ポイント増加しており、日常生活の中で新幹線を活用される方が徐々に増えてきていることが確認できた。

(2) 午前 (6~10時) の利用状況 (上り : 552号・554号・556号、下り : 591号・551号・553号)

図 2-1 乗降者数の割合 (N=489)

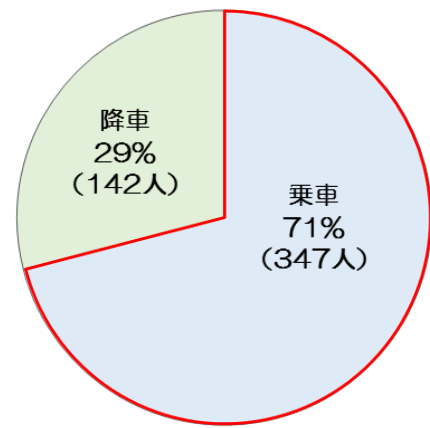


図 2-2 乗車客の内訳

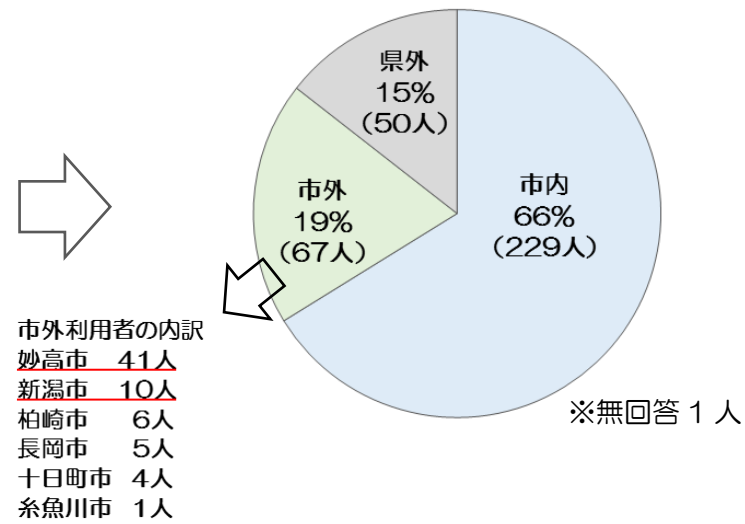


図 2-3 乗車客における利用目的 (N=347)

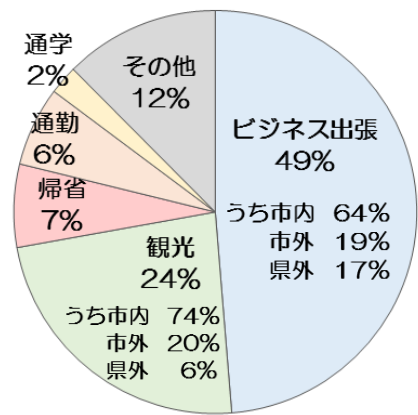


図 2-4 降車駅の利用割合 (N=347)

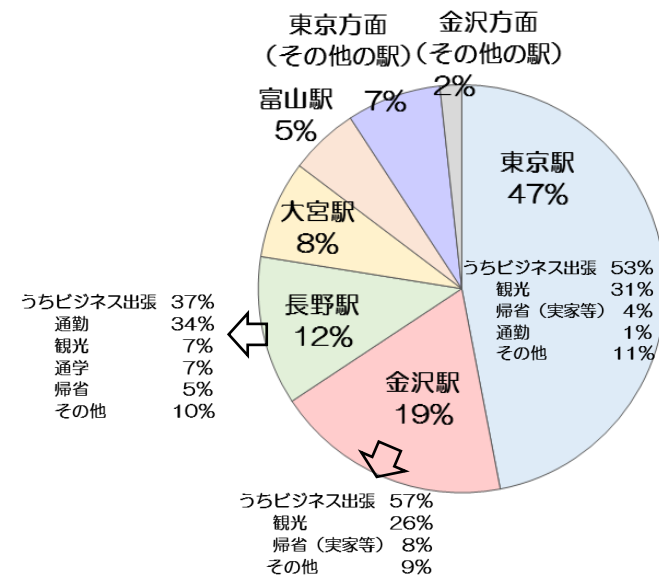


図 2-5 降車客の割合 (N=142)

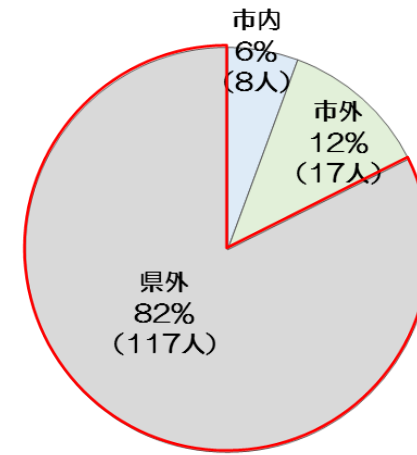


図 2-6 県外利用者における方面別の内訳

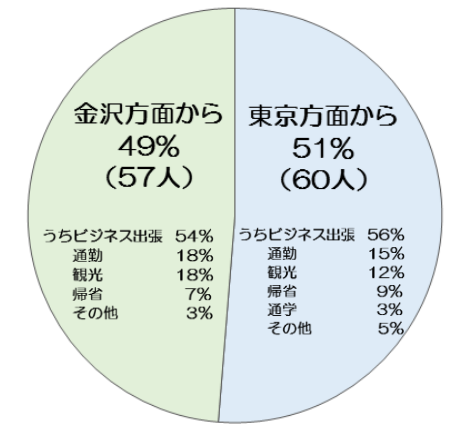
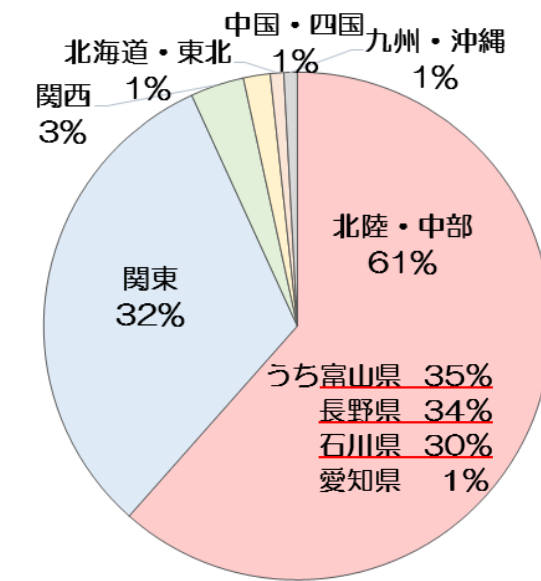


図 2-7 県外利用者の内訳



- ・午前中のアンケートでは、乗車で利用すると回答した人の割合が全体の71%を占めた。
- ・利用者の居住地をみると、市内と市外の利用者で85%を占め、午前中の時間帯は県内在住者の乗車需要が多いことがわかる。
- ・市外利用者のうち、妙高市に次いで新潟市在住者の利用が多く、約80%の方が金沢方面へ向かうと回答した。また、そのうちの約85%がビジネス出張での利用だった。
- ・降車する駅として、回答率が高かった3駅(東京駅・金沢駅・長野駅)の利用目的は、どの駅もビジネス出張での利用が一番多かった。しかし、長野駅においては通勤・通学の利用もみられ、朝の臨時列車の考察で触れたとおり、新幹線が日常生活の中で生かされはじめている様子がこの時間帯でも見られた。

- ・降車客の居住地をみると、県外利用者が回答者全体の82%と大多数を占め、東京方面と金沢方面のほぼ同数の人から回答を得ることができた。
- ・両方面ともに利用目的の割合はビジネス出張が半数を占めたが、通勤・通学での利用もみられ、特に長野県や富山県の在住者が上越妙高駅を利用している傾向がみられた。
- ・回答した県外利用者の内訳をみると、北陸・中部ブロックが一番多く、新幹線の停車駅がある石川県、富山県、長野県からの降車が北陸・中部ブロック全体をほぼ占める結果となった。

(3) 午後（14時30分～18時）の利用状況（上り：566号・568号・570号、下り：565号・567号・569号）

図 3-1 乗降者数の割合（N=404）

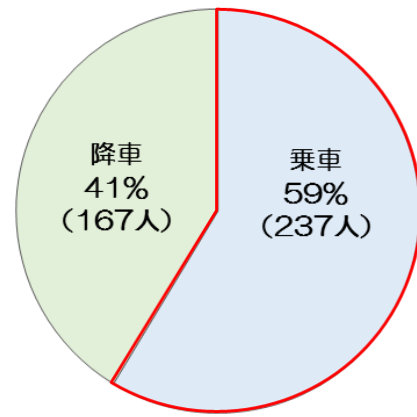


図 3-2 乗車客の内訳

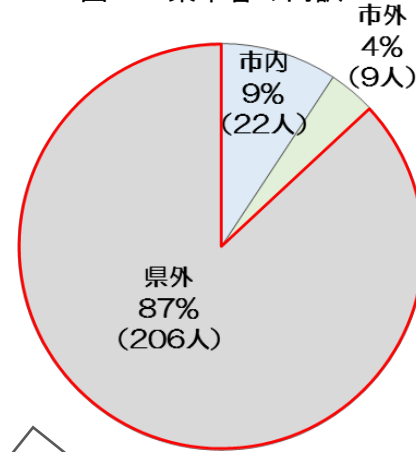


図 3-4 降車客の割合（N=167）

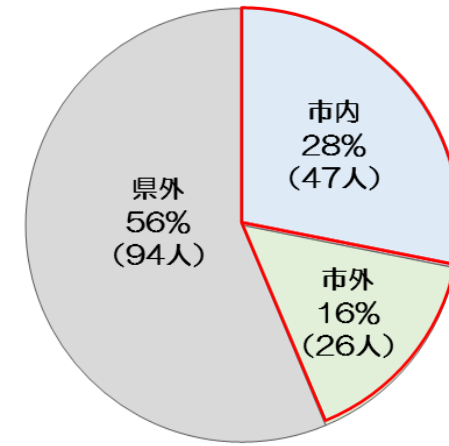


図 3-5 方面別の内訳

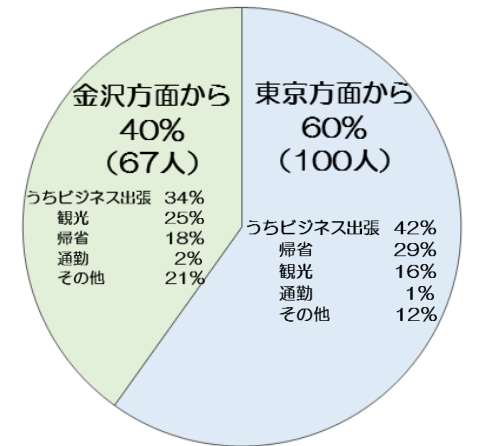


図 3-3 県外利用者の内訳

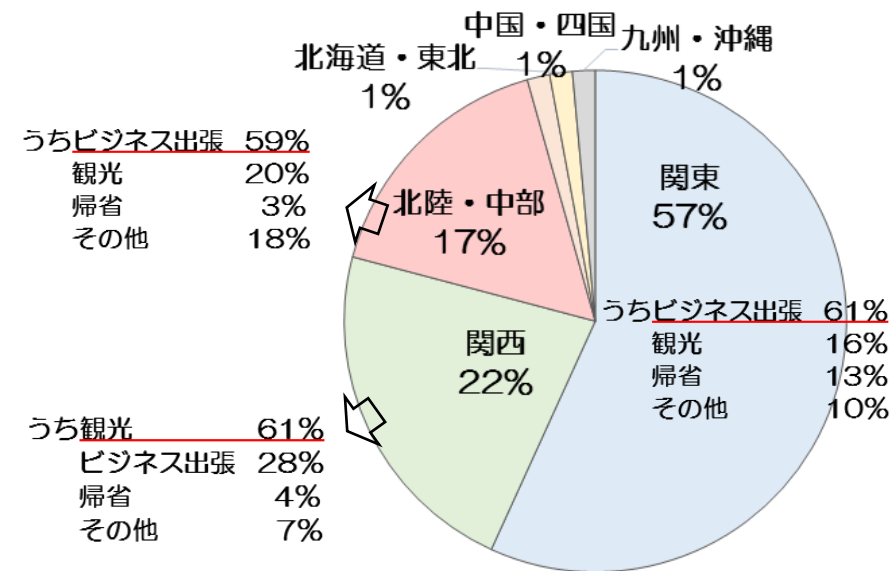


図 3-6 市内利用者における利用目的の内訳

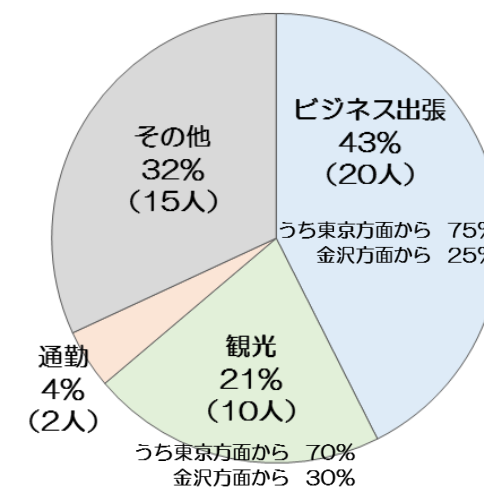
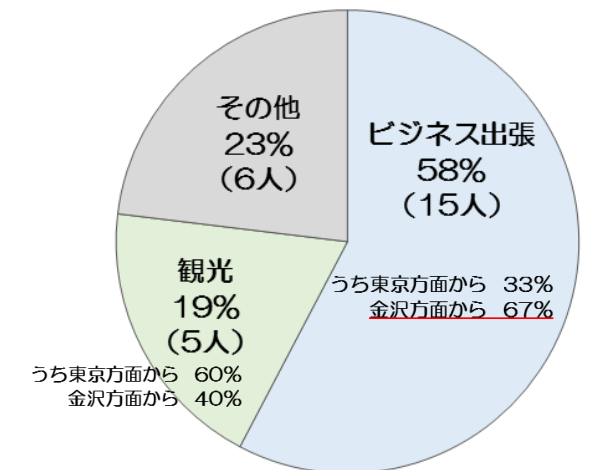


図 3-7 市外利用者における利用目的の内訳



- ・ 午後の時間帯のアンケートでは、降車で利用すると回答した人の割合が午前中と比べ、12ポイント増加した。
- ・ 乗車客の内訳をみると、県外利用者の割合が回答者の87%を占め、方面別の内訳では、関東ブロックが全体の約半数を占めており、ビジネス出張（帰り）における利用と回答した人が61%を占めた。
- ・ 関東に次いで回答が多かったのは関西ブロックで、新幹線の停車駅がある北陸・中部ブロックよりも上回っていた。関東や北陸・中部と違い、観光での利用が最も高くなる結果となった。中でも、大阪府と京都府在住者の観光目的での利用が多く、特急と新幹線を乗り継ぐ必要はあるものの、関西圏からの需要は多いことが伺える。

- ・ 午前の時間帯におけるアンケート結果と比較すると、市内・市外利用者の降車割合は高くなり、県外の利用割合とほぼ拮抗する結果となった。これは、市内と市外利用者の利用目的が、ビジネス出張と観光での帰りの利用で半数以上を占めていることから、朝の臨時列車や午前中の定期列車に乗車したビジネス出張者が、日帰りで帰ってきたものと推測される。
- ・ 市外利用者のうち、ビジネス出張と回答した利用者の方面別の割合をみると、金沢方面からの降車が回答の67%を占めており、そのうちの70%が新潟市在住者の利用であった。
- ・ その他の利用目的として、冠婚葬祭や親族宅への訪問が回答の大多数を占めた。
- ・ なお、県外利用者（94人）の内訳は、午後の時間帯における県外の乗車客（206人）の割合とほぼ同じ傾向であった。